

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務マニュアルをすべての職員に配布。施設内の目に付くところに理念を掲げ、年1回、5つの花びらの研修を通じ、共有、実践を行っている。月1回のケア会議も5つの花びらを基本に考え、理念の浸透を図っている。	5つの花びらの理念は来訪者にも分かるように玄関と各ユニットの目に付き易い所に掲示して、共有と実践に努め支援方針を明確にしている。年1回の研修に合わせて毎月のケア会議の中で理念に沿った支援について振り返り、日々の支援に取り組んでいる。また、新入職員には、日々のケアの中で他の職員の様子を見ながら全体の雰囲気を受け止めるように指導している。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。コロナ5類後、保育園や小学校、地域行事への参加、家族や知人との面会や外出も再開した。運営推進会議を通じ、月1回の地域ボランティアとの交流会も今期より開始となった。	開設以来、自治会費を納めて地域に親しまれ開かれた施設として活動している。地域の有志の会「あけぼの会」との連携を深めて月1回の交流会を行うと共に「八幡神社」の年間行事である「どんど焼き、豆まき、餅つき等」の見学にも出掛けしている。また、小学校の生徒が来訪して運動会で行った「ダンス」や「手遊び」を披露して頂く予定である。地域の保育園とは年間計画を立て、季節に合わせた相互交流を積極的に行っている。そうした中、利用者が製作した「手作り雑巾」や「手作りキーホルダー」等のプレゼントも引き続き行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の方だけでなく、地域で日々の介護に困っている方の電話や来訪相談も受けている。地域の介護支援専門員からの依頼で在宅で暮らされる認知症の方やご家族の訪問に同席することもある。地域のボランティアとの交流が開始した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のケアマネージャーや市内で介護されているご家族の来訪や電話相談などは都度丁寧に対応している。	運営推進会議は、北堀区長、区長代理、民生委員、市介護保険係包括センター、介護相談員2名、ホーム関係者が出席し、2カ月に1回偶数月に開催している。利用者状況、職員関係、活動報告、事故ヒヤリハット報告、身体拘束適正化委員会報告、要望、助言、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を通じ取り組んでいる。また、事故発生時の報告を速やかに行ない、情報の共有や再発防止に向けた協力関係を築いている。	将来、ショートステイを行う希望を持っており、市介護保険係には様々な事柄について相談している。市介護相談員の来訪も再開され、2カ月に1回45分間の来訪がある。30分間は利用者との交流、15分間は管理者との懇談をすることによって、日々の支援の向上に役立てている。また、介護相談員2名は運営推進会議にも出席して頂き連携を深めている。介護認定更新調査は、調査員がホームに来訪して管理者が対応しているが、立ち会われる家族もいる。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアについて定期的に全スタッフにアンケートをとり、結果をユニット会議で検証。入社時及び、定期研修を通じ周知している。玄関は、自動開閉ができない構造であるため、職員が都度付き添い玄関の出入りをお手伝いしている。	年に2回、身体拘束、虐待防止の研修会を行い周知徹底を図ると共に3ヶ月に1回、身体拘束適正委員会を開催して、拘束に関する意識を高めて支援に取り組んでいる。帰宅願望のある利用者が数名居られるが、一緒に散歩やドライブをしたり、作業等を行って気を紛らわせるように取り組んでいる。転倒落下危険のある方が半数位居られるため家族と相談の上、センサーマットを使用している。また、利用者の体調管理をして安全に過ごして頂けるように見守りシステムを数台導入し、必要に応じて使用することにより体調管理に役立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を行い学びを深めている。また3ヶ月に1回ケア会議で不適切ケアアンケートを実施・検証し、職員間での自浄作用が働くよう体制を整えている。また、小さなヒヤリハットでも声にしやすいよう、ヒヤリハット報告様式は簡易なものとし、検証・対策を丁寧に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう	入居時支援している。また、管理者は研修参加を通じ成年後見制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居前面談で、十分な説明を行い理解を得ている。制度改正時には重要事項説明書を交付。丁寧に説明し十分に納得して頂いた上で同意を頂き、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のつづきやきなども介護記録に記録。利用者の思いをくみ取り共有しながら、支援を行っている。玄関に意見箱を設置。また、年1回ご家族に満足度アンケートを匿名にて実施。意見や要望を運営に活かしている。遠方で暮らす家族や働いているご家族も多く、SNSを活用。日常の生活の様子を動画でお知らせしながら、頻繁なやり取りへと繋がっている。	昨年5月のコロナ5類への移行を受けて、いち早く通常の状態に戻した活動に取り組んでいる。家族の面会については時間制限なしに居室にて過ごして頂いている。半数位の家族は、週1回くらい面会に見えられ歓談の時間を過ごしている。また、母の日、父の日、誕生日には「お花」「洋服」「好きな食べ物」等のプレゼントが届けられている。利用者のホームでの生活の様子は、毎月発行される写真入りのお便り「みのり通信」でお知らせしている。また、気付いた事柄についてはスマートフォンのSNSや動画でできめ細かくお知らせすることにより家族より喜ばれている。今年度より9月に予定している「運動会」には、家族を招待する予定とのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	棟会議、拠点長会議、幹部参加によるライフサポート会議など、提案を聞き業務に反映させている。毎月ユニット会議を実施し、職員の意見反映に努めている。	毎月1回第3週に職員の多く集まれる日時を選んでケア会議を行っている。会議では、利用者の困り事についての話し合い、自己検証、連絡事項、研修会、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。人事考課制度があり年2回、段階毎のキャリアに従って自己評価を行い、その後、管理者と個人面談を行うことによって職員の評価と個々人のスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、各々がレベルに応じたスキルアップが出来るような環境を整えている。委員会活動など職員が主体となって考え管理者がサポートに入るようにし、職員の意見を言いやすく業務に反映しやすい職場作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	年間研修計画に応じ、毎月事業所内で全体研修 を実施。その時の利用者の疾患や認知症の進 行状況に応じての研修も行っている。本社の施 設部門全体の研修も開催。他施設との合同研修 は、様々な職員の意見を聞ける機会・広い視野 を持つ機会に繋がっている。それぞれの職員の 力量をみながら、指導・助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	千曲市介護保険事業所連絡会、施設部会に参 加し、各施設の情報交換を行っている。また合同 研修会や事例検討を通じ、資質向上に努めてい る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅等事前訪問を必ず行い、ニーズの把握、ご 本人・ご家族の意向確認を行なっている。また、 センター方式シートやアルバムを用いた過去の 生活把握。本人の声に耳を傾け関係を構築して いる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居相談の段階から、ご家族の思いに耳を傾 け、相談しやすい関係づくりを大切にしている。 事前訪問時には、家族と本人の今までの暮ら し、関係性、家族の意向や要望の確認を行って いる。入居後1～2ヶ月は、家族に安心してもら えるよう特にこまめに電話報告・相談を行い、写 真なども用いながら、現状の共有・意見吸い上 げに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	施設ケアマネが入居前より、個別相談受付を行 なう。適切な施設紹介や在宅ケアマネジャーと の連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や草取りなど、5つの花びらの基本理念の 元、本人のできる能力を日常生活に活かしながら、 《みんなの輪》を大切にしながら、本人の生 きがいへとつなげるよう関係を築く努力をしてい る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	入居前面談、更新時面談等により、家族の意 向・役割を確認しながら、ケアプランに家族の 役割を位置づけている。日頃から、利用者の状 況を家族と共有し、支援の方針を確認・共に考え ご家族と一緒に共に支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との交流を大切に、家族との 外出、親戚の集まりへの参加、自宅への外泊も 利用者の生活の日常となっている。遠方のご家 族とも帰省時面会以外にもオンライン面会を取り 入れ家族との結びつきを大切にしている。毎年 家族との年賀状のやり取りも継続し長年の習慣 を大切な人と継続できるようにしている。	半数位の利用者は家族と食事に出掛けたり1泊で自宅 に戻られ家族との団欒の時を楽しまれている。また、お 正月に1泊で家族旅行に出掛けられている方も居られ る。そうした中、手作りの「暑中見舞い」「年賀状」を家族 にお出しして喜ばれている。理・美容については2カ月に 1回訪問美容師の来訪があり、カットして頂いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が最初に繋ぎ見守ることで、利用者同士で日常的にカラオケやパズルなどを楽しめる時間も大切にしている。関係性が築きやすい座席を工夫し、間に入ることでつながりを構築できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ関係機関と連携をとりながら、継続した支援が出来るよう、情報の提供をおこなっている。ご家族からの連絡、野菜類のお届けなどいまだに終了後のご家族の来訪がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の把握を行い、ご本人の希望や意向の把握に努め、どうすれば実現するかの視点で考え介護計画に反映し支援している。	少数の利用者は、自分の想いを伝える事が難しい状況であるが、家族からお聞きした生活歴も参考にして問い掛けに対する表情等から想いを受け止め希望に沿えるように取り組んでいる。他の利用者は意思表示の出来る状況であり、飲み物、洋服選び等幾つか提案して選んで頂く様進めている。また、日々の支援の中で気付いた事柄については申し送りノートの中に纏め情報を共有し、申し送り時に確認しあって利用者の希望に沿える様支援に繋げ気持ち良く過ごして頂く様進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活を事前訪問により把握し、介護スタッフにわかるように情報を共有し、なじみの暮らし、こだわりを大切にしながら、穏やかな時間が継続できるように支援している。また本人との関わりやご家族との会話で得た情報や気づきも記録で職員に共有し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のミーティング時間で情報を共有し、一人ひとりにあった支援や環境を考えて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画作成担当者が出力したモニタリング表を全スタッフに回覧、追記。棟会議、ケア会議、担当者会議を通じ計画作成に反映させている。定期的にケアプランを見直し、家族を招き担当者会議を開催している。	全職員で利用者個々の状況把握に努めている。家族の希望は、面会時や電話で伺い、毎月回覧されるモニタリング表を用いて、ケア会議の中で意見を出し合い管理者とケアマネージャーがケアプランを作成している。入所時は、家族からお聞きした生活歴も参考にして暫定で2～3カ月のケアプランを作成して、短期目標6ヶ月ケアプランに繋げている。ケアプランは、状態が安定している場合には1年での見直し、状態に変化が見られる時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは介護記録に残し、特に重要な事に関しては、1目で分かる申し送りノートに記載。ケア会議だけでなく、朝夕のミーティングでも関わりや対応・環境など都度検討し支援をしている。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	検討を重ねながら、出来る体制の中でその日の状態や状況に応じた柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は回覧板等により把握。参加できる活動は柔軟に参加、地域の公園やスーパーへ出かける機会を作っている。自治会長が地区の会報をこまめに届けてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族が希望する医療機関で行っている。協力医による往診を月2回受け適切な医療が受けられるよう支援している。訪問歯科の適宜往診を受けている。	入所時に医療機関についての希望をお聞きして、ホームとしての取り組みを説明している。大多数の利用者が月2回のホーム協力医の往診を受けている。若干名の利用者は、家族の送迎により、入所前からのかかりつけ医で診療を受けている。また、皮膚科等の専門医の受診は、基本的には家族にお願いしている。更に隣接の地域密着型生活介護特定施設の看護師とも連携を図り、医療体制を整えている。歯科と歯科衛生士による2週間に1回往診により、口腔の健康にも配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設サクラポート八幡とNS連携を実施。週2回の訪問・24時間連携を実施し、心身の変化に早期に気づき重症化しないよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	病院カンファレンスへの参加を行い、情報交換や関係作りに努めている。退院時はサマリー職員が確認する体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期、サクラポート八幡と医療連携がはかれたことにより、重度化及び終末期にむけた指針を作り、全ての家族に同意を頂いた。今後利用者の状態に急激な変化がみられた時は、都度家族と話し合い書面に残しながら、家族・本人の意向・ご家族と過ごせる時間を大切に支援していく。	本年4月より隣接する地域密着型生活介護特定施設との間で24時間の医療連携が図れるようになり、看取り支援に対する環境整備が整ったため、重度化、終末期に対する指針を作成して、ご家族に説明の上、同意を頂いている。今後は、終末期を迎えた時には、家族の意向を確認して書面に残した上で、医師、看護師、ホームで連携を取って意向に沿った支援を行っていく予定である。また、年2回管理者が講師となり看取り支援に対する研修会を行い、重度化に対する心構え等を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回応急処置や事故対応、感染症対策の研修を実施している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を地域住民も含め行っている。見守りを含めた協力、施設を避難所として開放する等現在も運営推進会議の場を通じ議論している。前年度は地震想定訓練、火災想定訓練を実施した。1回は抜き打ちで行うことにより課題を明確化できるようにしている。AEDは、地域でも使用できるようにしている。	消防署、行政、区長さん参加の下、年2回防災訓練を行い緊急への備えとしている。前年度は3月と10月の2回地震想定火災訓練、避難訓練を行っている。職員による通報訓練、消火器を使つての初期消火訓練、駐車場までの避難誘導訓練、消防署員によるストレッチャーを用いた避難介助方法の体験等を行っている。終了後には参加者全員で反省会を行い防災意識の向上に繋げている。備蓄として、「お米」「水」「缶詰」「汁物」「食器類」「看護用品」「衛生用品」等が充分備えられている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の覚書を交わしている。研修を年1回行っている。また、常に人生の先輩として意識し、自尊心を傷つけないような言葉を選んだり、本人の世界観を大切にしたいケアを考え実践している。不適切ケアアンケートも実施し、対応が適切か職員間で考え都度改善している。	利用者個々の自尊心に気配りをした関わり方、言葉使いを心掛けている。また、日々の生活を楽しく、気持ちよく過ごして頂けるように個々の想いを受け止めた支援に繋げるように取り組んでいる。呼び方は一人ひとりの希望に合わせ苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際には「ノック」と「トントン」と声掛けをするようにしている。年1回プライバシー保護に関する研修会を行い、意識を高め支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	参加する活動の選択やできる活動への参加など本人の意思を尊重した働きかけを行っている。参加しやすいような環境作りや声掛けの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの暮らしを大切に、起床時間、就寝時間、入浴時間、など本人の意思を尊重している。衣類の選択やする活動、したい活動など本人のペースに合わせ支援している。生活サイクルは意識しながらも、食事時間や就寝時間も細かく決めず、眠くなるまで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時出来る方は、ご自身で整容している。訪問美容ではパーマやカラーを楽しんでいる。ご自分の化粧道具で鏡をみながら化粧や肌の手入れを楽しまれ、おしゃれを通じ自分を表現していただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食一緒に包丁で食材を切る、味付け、盛付など調理を行い、下膳、食器洗いも職員・利用者全員で行っている。行事食も積極的に取り入れ季節やイベントを楽しめることを大切にしている。手作りうどんやおやき作り・馴染みのある郷土食作りも積極的に取り入れている。	多数の利用者は、自力で食事が出来、数名の利用者が全介助の状況である。献立は食事委員会で利用者の希望も加味して職員が1週間分のメニューを作り調理している。元気な利用者が多く、半数の方は包丁を使える状況下でもあり、出来るだけ季節感を取り入れ一緒に調理できるような物を取り入れて調理している。そうした中、行事食として正月には「おせち料理」を重箱に詰め新年を祝い、ひな祭りには「ちらし寿司」、お彼岸には「おはぎ」、土用の丑の日は、「ひつまぶし」、春には、「山菜」等で季節の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックを行いながら、薬に依存しない対策を検討。トータル水分量を把握し、盛り付け量なども個別に定めている。状態に応じトミ剤、粥、刻み、ミキサー食等を提供。食事・水分量が少ない利用者には家族と連携し、本人が好むものに変更し提供している。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。口腔ケア用品は毎日洗浄、消毒を行い清潔な物を使用。個別に仕上げ磨きを支援し、予防歯科にも力を入れている。また、訪問歯科検診なども実施し、助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易に布パンツからオムツへ使用変更せず、布パンツでの生活が継続できるようその人に合わせて考えて支援している。、これまでの習慣も含め、個別の排泄マニュアルを作成。スムーズなトイレ誘導、排泄の自立に取り組んでいる。排泄の仕方に不安のある利用者には、トイレ内、または近くで見守り、支援を行っている。	排泄は、自立が数名、一部介助が多数、全介助が若干名の状況である。職員は、利用者個々のパターンを把握しており排泄表も参考に様子を見ながら早めに声掛けをして気持ち良く過ごして頂くように支援している。若干名の利用者は、排便が3～4日無い場合には、隣接の地域密着型生活介護特定施設の看護師に対応をお願いしている。また、本人が好きな飲み物(コーヒー、ココア、紅茶)等を中心に各種ジュース、お茶等で1日1200cc～1600ccの水分摂取に取り組んで排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に下剤を使用せず、水分量の把握や散歩、ストレッチ体操、豆乳、職員による腹部マッサージなどを積極的に取り入れている。、自然の力を活かした便秘予防に努めている。また、献立に多くの野菜を入れるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人湯を入れ替え、温泉の入浴剤を選択、菖蒲湯など季節に合わせた湯を提供し、好評をいただいている。曜日や時間帯はケアプランにより、位置付けているが、気分や体調を把握し、柔軟に対応している。足湯など個別の対応も柔軟に行っている。	広々とした浴室で週2回入浴を行っている。全利用者何らかの介助が必要な状況である。数名の利用者は入浴拒否があるが、無理強いせず日程や時間を変え入浴して頂いている。また、年数回入浴イベントとして「菖蒲湯」「みかん湯」「ゆず湯」等を行い季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽やなじみのぬいぐるみ、室温、照明などその人にあった環境を配慮。夜間眠れない時は、ホットミルクを提供しリラックスして頂くようにし、安易に眠剤の使用はしないようにしている。必要に応じ眠りスキャンを導入による、睡眠アセスメントを実施。生活リズムの見直し、改善に活かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方内容を全職員が見れる場所に配置。利用者の疾病に関しては、症状や今後の経過などを印刷し、疾病への理解を深め支援している。各々の利用者に応じた服薬方法を取り、変化を職員間で共有。服薬は2名セットでチェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式シートを用い、新たに本人の嗜好や生活歴を知った時は追記し共有している。入居前に日課にしてきた生活を大切に、役割や生きがいを持った生活が送れるように支援している。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や公園等に外出、菊花展やお花見、紅葉狩りなど、季節を感じられる外出支援を大切にしている。ゴミ捨てや草取り、洗濯干し、散歩、外でのお茶会など日常の中でも戸外に出られる機会を設けている。	外出時は、半数が自力、歩行器使用が数名、車いす使用が数名の状況である。天気の良い日には、ホームの周りを散歩したり、家庭菜園の水やりや収穫を楽しんでいる。また、天気の様子を見ながらドライブに出掛けて外の雰囲気を楽しんでいる。年間外出計画に沿った春のお花見、秋の紅葉見物には、「お茶」と「おやつ」を持って外出して楽しいひと時を過ごしている。更に地域ボランティア「あけぼの会」と連携して「八幡神社」の年間行事の見学にも出掛けしている。家族と外食に出掛けたり泊で旅行に行かれている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金をお預かりしている利用者はいない。家族に買い物代金を依頼された時や施設のおやつを利用者と買いに行きお支払いして頂くことで、選ぶ楽しさや購入することの満足感を感じてもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は共に家族や知人に電話をしたり、家族からもいつでもかけて貰えるようにしている。オンライン電話は入浴時間等重なることもあり事前に連絡を頂いてから行っている。年賀状や暑中見舞いなど、四季を感じながら家族や知人とのやり取りを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や温かさ、風を感じて頂けるようにし、夜空調、湿度管理を行っている。台所なども十分なスペースを確保し、家具なども家庭的な雰囲気のものを用いている。花等を飾り季節感を取り入れている。季節ごと利用者と共に作品を作り、ホールや居室に展示し、季節を感じてもらえるよう支援している。	広々とした敷地内には家庭菜園の畑があり夏野菜の栽培を楽しむ場となっている。玄関を入ると小学生から贈られたお手紙や作品が飾られ交流の様子が窺える。広々とした共用部分は南側の窓から陽ざしが差し込み明るい中で生活している。ホール内には新しく導入された「カラオケ装置」が設置され寛ぎの場となっている。また、室内は利用者の作品や季節の飾り付けが施され季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のいい利用者と好きなところに移動しながら過ごせるようソファや席を配置している。またソファの近くに本棚を設置し、本や雑誌を好きな時に読める環境を作っている。本人の意向を聞きながら個々の動線に応じ手すりを設置するなど住環境にも工夫を凝らし支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具や調度品、写真等思い思いに持ち込まれている。家具や布団はなじみの物を持参していただいている。動きやすい動線への配慮をしている。	掃除が行き届き清潔感漂う居室は、大きなクローゼットが完備されて暮らし易い作りとなっている。また、室内には転倒防止に配慮した手摺りが設置されている。また、壁には家族の写真やご自分の作品、職員から送られた誕生日のお祝いカード等が飾られ、思い思いの生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリの時点で環境の改善に努め、安全に自立した生活が送れる様に配慮。センター方式を用い、出来る事、出来る可能性のある事を個別に把握。できる事まで支援しすぎないようにしている。環境を整えることでできる事、やりたいことも楽しめるようになるため、必要に応じて積極的に福祉用具を取り入れている。今できないこともケアの仕方次第で再びできるようになる。考える続けるケアを大切に、利用者一人一人に適した支援をすることで本人の能力を最大限生かせるように取り組んでいる。		